

## 令和3年度物部川清流保全推進協議会総会 議事概要

日時：令和3年11月1日（月）13:30～15:30

場所：高知城ホール4階多目的ホール

出席者：【委員（代理出席含む）】別紙出席者名簿のとおり（15名）

【事務局】自然共生課長ほか

【その他】河川課、委員随行者多数

- 1 高知県林業振興・環境部 自然共生課長あいさつ
  - ・会の成立を報告
  - ・「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、審議内容をホームページで公開することの了承を得る。
  
- 2 議事
  - (1) 物部川清流保全推進協議会会長及び副会長の選出について
  - (2) 令和2年度物部川清流保全推進協議会の事業報告について（報告）
  - (3) 令和3年度物部川清流保全推進協議会の事業計画について（協議）
  - (4) その他（意見交換等）

### 【議題1に対する概要】

	会長に渡邊委員、副会長に笹原委員を選出。
--	----------------------

### 【議題2に対する質疑・意見概要】

兼松委員	取組を行うことで何が変わったか。やることによって変化することが重要だと思う。例えば濁水調査をすることで何が変わったのか教えてほしい。
事務局	代かき濁水調査はどれだけ効果が現れたかという基礎データを収集するために実施している。また、5年に1回流域の農業者を対象にアンケート調査を実施し、広報の手法などの検討材料に使用し、浅水代かきを実践する方を増やそうとしている。
笹原委員	協議会の取組について、効果の評価はどのようにしているのか。
事務局	現状、効果の評価はできていない。今後、具体的な取組と一緒にワーキングで検討していきたい。

笹原委員	川本来の姿を取り戻す取組で検討している環境配慮書について、対象者をどのように考えているか。
事務局	行政関係者を対象と考えている。この配慮書では物部川の性格や瀬・淵の名称など住民が大事にしてる場所の共通認識を図ることを目指しているが、民間へも活用できないか河川管理者と協議していきたい。
渡邊会長	農業濁水については普及が進みつつある取組であると思う。JAの協力などにより良いアウトプットの指標ができるのではないかなと思う。川本来のワーキングについては、清流保全の第二の柱になるような取組になると期待している。

【議題3に対する質疑・意見概要】

渡邊会長	物部川ではこの清流保全推進協議会に加え、濁水対策検討会や流域治水協議会があるが、これからはより一層連携していくことが求められている。様々な関係者が取組を行っているが、そのことを理解し共有することが必要。具体的な方法としては双方向コミュニケーションとなるが、一方的な広報ではなく活動に関心と愛着を持ってもらえるような広報が重要であり、今後の活動の大事なウエイトを占めると感じている。
笹原委員	今年度作成した取組一覧の指標について、これからブラッシュアップしていなければいけないところはあるものの、作成したことは評価したい。ただ、土木部門の項目が少ないと思われるため、網羅的にリストアップした方が良いと思う。 山の保水力ワーキングについて、森林土壌の発達という観点で森林管理の効果を指標化できないだろうか。荒れた場所と適正に管理された場所での土壌調査などで評価ができないか検討してはどうか。
事務局	土木部門の項目について、河川管理者と相談しながら反映していきたい。また、森林土壌の観点からの評価についても、ワーキングの中で検討していきたい。
吉良委員	森林管理署としてもワーキングの中で検討していきたい。

兼松委員	<p>物部川清流保全計画は最初の計画づくりから携わってきたが、50年後の目標に対して、策定から13年経過しているが、10年後、20年後、30年後などといった区切りで、何が変わったのか評価する必要があるのではないかと。令和10年の姿をどうやったらよいかという議論が出来る場を提案してほしい。</p>
事務局	<p>現状を把握するためまずは指標を作成した。計画で示す50年後の姿を取り戻すために20年後あるいは30年後の姿がどうあるべきかを示すということは本質であるが、できるかどうか検討させていただきたい。</p>
安芸委員	<p>町田堰は50年経過しているが、ようやく改修を進める段取りとなった。来年の2月から3月にかけて順次改修を行い水の問題で迷惑をかけるが協力をお願いしたい。</p>
松浦委員	<p>色々なワーキングの中で我々に一番関わりのあるのは川本来の姿を取り戻すワーキングである。従来であると治水のために環境を一定犠牲にすることが大義名分であったが、最初から環境に配慮した方が治水にも利するのではと思っている。川本来の姿を取り戻すことも大事だが、河川改修により不可逆的变化が多くなる。起こったことを取り戻すことは難しいので、河川構造物を作るときに起こらないようにするための配慮書が必要。</p>
多田委員	<p>河川改修の設計の際、早く相談しておいた方が良かったという事例はある。どうすれば防ぐことができるか。技術者が自分で考え試行錯誤する姿勢が必要だが知識を習得する場が少ない現状。配慮書については書き物にすることは有効である一方、そのとおりにすればよいといった思考停止が起こることもありバランスをどう取るか難しい。このような会議では専門知識に長けている方の集まりであるので、出来るかどうかは別として言うだけ言ってもいいと思う。</p> <p>また、山の保水力ワーキングについては、流域治水でこの話をしていて、清流保全推進協議会で引き取ってもらいたいありがたいが、進めていくのは難しく委員の知見をまとめていくことも有効だと思う。</p>
松浦委員	<p>川については小さな変化を積み重ねていって、それをきちんと検証し次につなげていくことの繰り返しが重要。この答えはアユが出してくれ、アユを</p>

	<p>釣る人たちが私たちに出してくれる。環境に配慮しどこまでできるか試行錯誤し、積み重ねていけば流域治水につながると思う。意見が必要であればいつでも声かけしてほしい。</p>
<p>笹原委員</p>	<p>河川の現場を見学して議論する、そういった見学会は若い技術者が刺激を受ける機会になり必要である。どの会が実施するかは別として国交省だけでなく河川担当者に広く声かけて勉強会をしてはどうか。</p>
<p>多田委員</p>	<p>勉強会開催はありがたい意見。出来る出来ないといった問題はあるものの議論することで有意義な方向へ向う。</p>
<p>岩神委員</p>	<p>多田委員のおしゃるとおりで心強く感じるが、それぞれの組織では限界があり、ダム発電と灌漑の水利権や川と海とのつながりの問題などみんなで協力し共有していくことが重要。物部川は天然アユにこだわって取組を進めてきたが、天然アユには守ってくれる自然環境が必要。色々な団体の協力なくては進めていけない。今は水量不足が喫緊の課題。大事でない取組は一つもないが、優先順位を付けて取り組んでもらいたい。今一番優先すべき問題は水利権の調整、話合いの場を持っていただきたい。</p>
<p>渡邊会長</p>	<p>本日の意見集約として、1点目は中長期の目標、具体的には令和10年、令和20年の目標というのを立てるべき。そしてPDCAサイクルをきっちり回していく必要がある。2点目は検証する指標、事務局が作成した指標にさらに深みを加えていく必要がある。3点目は行政実務者向けの環境配慮書、上流域にもその配慮書を配布していく。そして、現地見学会あるいは勉強会をぜひ開催してもらいたい。4点目は長期的や短期的な課題、あるいは研究的な話もあるが、皆で理解し認め合う共生が大事ではないか。例えばダムの話だと立場によって色々な悩みがあり、その不安というものをお互いに聞き合って理解していく、そういった場が必要で、それが長期的な目標達成にもつながるし、喫緊の課題の解決にもつながるのではないか。こういう話合いの場を持っていく必要があると感じた。</p> <p>ということで、1点目「目標」、2点目「指標」、3点目「新しい考え方の理解普及」、4点目「共生の機会」という4つを付け加えることで令和3年度の計画を承認ということによろしいか。(会場拍手)</p>

閉会

## 出席者名簿

(敬称略)

氏名	役職等	出欠	備考
兼松 方彦	物部川 21 世紀の森と水の会 事務局長	出席	
岩神 篤彦	アクアリブルネットワーク座長	出席	
多田 直人	国土交通省四国地方整備局 高知河川国道事務所長	出席	
吉良 崇夫	四国森林管理局 高知中部森林管理署長	出席	
平山 耕三	南国市長	代理出席	副市長 村田 功
清藤 真司	香南市長	代理出席	副市長 田内 修二
法光院 晶一	香美市長	代理出席	副市長 今田 博明
中村 剛	高知県林業振興・環境部長	代理出席	副部長 豊永 大五
依光 良三	高知大学農学部名誉教授	欠席	
石川 妙子	水生生物研究家	欠席	
笹原 克夫	高知大学教育研究部 自然科学系理工学部門 教授	出席	
渡邊 法美	高知工科大学 経済・マネジメント学群 教授	出席	
松浦 秀俊	物部川漁業協同組合 代表理事組合長	出席	
石川 彰宏	香美森林組合代表理事組合長	出席	
宗石 高広	物部森林組合代表理事専務	欠席	
新谷 正雄	山田堰井筋土地改良区理事長	代理出席	事務局長 猪野 正人
安芸 紀雅	物部川土地改良区連合理事長	出席	
森田 祐輔	高知県農業協同組合香美地区本部 総務・信用共済担当常務	出席	

※随行者除く